平成２７年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録目次

12月22日（火曜日）

○議事日程（第１号）……1
○会議に付した案件……1
○出　席　議　員……1
○説明のため出席した者……2
○開　　会……3
・会議録署名議員の指名について……3
・会期の決定について……3
・報告第１号の上程、説明、質疑　……3
○閉　　会……24
○署　名　議　員……25

平成２７年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第１号）

平成２７年１２月２２日（火曜日）午後１時４０分開会

第　１　会議録署名議員の指名について

第　２　会期の決定について

第　３　報告第１号　横手市中学校創快宣言に基づく取組について

本日の会議に付した案件

議事日程第１号に同じ

出席議員（２５名）

１番	髙橋和樹	３番	立身万千子
４番	斎藤　勇	５番	小野正伸
６番	遠藤忠裕	７番	土田百合子
８番	寿松木　孝	９番	播磨博一
１０番	青山　豊	１１番	加藤勝義
１２番	奥山豊和	１３番	本間利博
１４番	菅原正志	１５番	土田祐輝
１６番	佐藤清春	１７番	佐藤忠久
１８番	塩田　勉	１９番	佐々木喜一
２０番	佐藤誠洋	２１番	髙橋聖悟
２２番	木村清貴	２３番	阿部正夫
２４番	齋藤光司	２５番	菅原惠悦
２６番	佐々木　誠		

説明のため出席した者（２９名）

市長	髙橋　大	教育長	伊藤孝俊
教育総務部長	柴田恒宏	教育指導部長	石川　淳
教育指導課長	鈴木雄幸		

平鹿中学校	荒木千夏	佐藤拓未	遠藤茉衣子
横手明峰中学校	佐々木快盛	髙橋快渡	佐藤瑠衣
横手南中学校	渡辺湧大	長沢拓人	山本朱莉
横手北中学校	伊藤龍朗	高橋宝久斗	
増田中学校	後藤海斗	木村　和	石田もなみ
十文字中学校	吉田晃明	内藤学哉	齊藤茉央
山内中学校	髙槇　光	永沢　陽	高橋歩未
横手清陵学院中学校	伊藤正虎	柴田侑紀	伊藤友理

事務局職員出席者

事務局長	皆川規和	主幹	佐々木賢祐
議事調査係主査	松井尊臣	議事調査係副主査	菅原義隆
総務係主任	横井希望		

午後１時３９分　開　会

◎開会及び開議の宣告

○佐藤忠久　議長　皆さん、こんにちは。

ただいまから平成27年Ｙ８サミット創快横手市議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名について

○佐藤忠久　議長　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、18番塩田勉議員、21番髙橋聖悟議員を指名いたします。

◎会期の決定について

○佐藤忠久　議長　日程第２、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

今Ｙ８サミット創快横手市議会の会期は、本日１日といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○佐藤忠久　議長　ご異議なしと認めます。従って、会期は本日１日と決定いたしました。

◎報告第１号の上程、説明、質疑

○佐藤忠久　議長　日程第３、報告第１号横手市中学校創快宣言に基づく取り組みについてを議題といたします。最初に創快宣言の４つの柱のうち、「認め合い」について説明を求めます。

平鹿中学校、荒木千夏さん。

十文字中学校、齊藤茉央さん。

横手明峰中学校、佐藤瑠衣さん。

○平鹿中学校　荒木千夏　横手市８つの中学校で構成されるＹ８では、昨年この市議会の議場で、こちらに掲げます「横手市中学校創快宣言」を採択、承認していただきました。お手元の参考資料１にも載せられております。

「認め合い」、「感謝」、「あいさつ」、「つながり」の４つの柱からなる、目指す創快な姿に近づこうと、この１年間様々な取り組みを進めてまいりました。それは、柱を意識し、それぞれが工夫をこらしながら創快の輪を広げるための実践です。今日はその成果を報告する場となります。報告後には、率直なご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと考えております。

今日はどうかよろしくお願いします。

○十文字中学校　齊藤茉央　「認め合い」について、横手市内の中学校で行った取り組みは、大きく分けて２つあります。

まず１つ目は、いじめをなくすための取り組みです。いじめを減らし、なくしていくには、相手の良いところを見つけるということが大切だと私たちは考えました。そこでＹ８では、褒め合う活動を各校で実施しました。

例えば、十文字中学校では、「ほめあい月間」と題し、学年ごとに掲示場所を設け、自分が見つけた友達の良いところを付箋に書き込み、紹介するという活動を行いました。横手明峰中学校でも、「ほめほめの木」というコーナーを設けています。他にも平鹿中学校で「ホットポスト」の設置などを行っています。

このような活動を通して、各校で互いを認め合おうとする雰囲気が、徐々に高まってきたように思います。

○横手明峰中学校　佐藤瑠衣　２つ目は、情報モラルについての取り組みです。

まず、私たちは情報機器の使用状況や、それらを巡るトラブルなど、実情を知るために各校でアンケートを行いました。その結果を踏まえ、どんな課題があり、どんな対策が考えられるかを検討しています。横手市の中学生が共通で行う情報モラルの啓発とともに、生徒自身での自立的な使用、そしてルールを守るという意識を高めることがねらいです。

例えば、先日行われた「アウトメディアチャレンジデー」や「十中ＳＮＳアクション」などがあります。これらをきっかけに、メディアの上手な使い方を考え、横手市の中学生の共通ルールの作成に努めている最中です。

これで「認め合い」の報告を終わります。

○佐藤忠久　議長　次に、「感謝」について説明を求めます。

山内中学校、高橋歩未さん。

平鹿中学校、遠藤茉衣子さん。

○山内中学校　高橋歩未　「感謝」に関わる取り組みについて報告します。

日頃お世話になっている地域の方々や仲間に、なかなか面と向かって伝えることのできない感謝の気持ちを伝えるため、Ｙ８サミットでは、各校で共通の実践を呼びかけ活動してきました。

感謝の気持ちを言葉で伝える実践として、「ホットポスト」「カードの交換」「想いを形にキャンペーン」など、感謝の気持ちを伝えることができていない人に感謝の気持ちを伝える活動をしてきました。

活動の具体例を紹介します。

○平鹿中学校　遠藤茉衣子　平鹿中学校生徒会では、各学年の廊下に、こちらの「ホットポスト」という目安箱のようなポストを設置し、友人や日頃お世話になっている方々へ感謝の気持ちや思いを言葉で伝える活動を進めています。寄せられたメッセージは、毎週木曜日の給食時間、校内放送で紹介しています。生徒たちが「ホットポスト」に投函したメッセージを紹介します。

「テストお疲れ様でした。２人のおかげでいつもより 100 点以上アップしました。次のテストもアップできるように頑張るので、また勉強教えてください。」、「勤労感謝の日に言えなかったことがあります。父さん、母さん、おじいちゃん、おばあちゃん。お仕事お疲れさま。これからもお仕事頑張ってください。」など、心温まるメッセージが毎週届いています。部活動の総体や新人戦などが近づくと、後輩から先輩、先輩から後輩への激励の言葉が書かれているメッセージが増えます。

この「ホットポスト」を利用することで、何気ない日々の感謝を伝えることが増えました。私たち生徒会が送る昼の放送も、温かい雰囲気で毎回充実させることができています。この取り組みを続けてきたことで、受容的で温かい校風づくりにつなげてこられたと感じています。

いま紹介した取り組みは、本校では昨年度から実践している取り組みです。Ｙ８サミットで話し合った際、横手市の中学校で共通して実践できるのではないかということで、今年度からは市内８つの中学校全てで共通して行われるようになりました。

他校では「ホットポスト」というネーミングとは異なりますが、感謝の思いを形にしたり、互いに認め合ったりといった実践が横手市内の各校で共通で行われていることは、とても意義深いことだと感じています。

○山内中学校　高橋歩未　いま報告した活動の他にも、期間を決めて実践する活動として「給食残飯０（ゼロ）週間」があります。食べ物への感謝や、作ってくださっている方々への感謝を伝えるために、各校で取り組みました。

以上、「感謝」に関する報告でしたが、これは「認め合い」や「つながり」などといった他の柱にも深く関わっています。今年度行ってきた取り組みを今後も大事にしながら続けていくことで、「創快宣言」が目指す横手市の中学生像に近づいていけると確信しています。

以上で「感謝」についての報告を終わります。

○佐藤忠久　議長　次に、「あいさつ」について説明を求めます。

横手北中学校、伊藤龍朗さん。

横手清陵学院中学校、柴田侑紀さん。

○横手北中学校　伊藤龍朗　私たち横手市内８中学校では、あいさつの輪を学校内だけにとどめずに、自分たちの住む地域や出身小学校にまで広げました。特に、小中の連携を意識したあいさつ運動を取り入れている中学校が多くみられました。私たち中学生が地元の小学校を訪問して、登校してくる小学生に対してのあいさつ運動を行い、あいさつの輪を広げていきました。

横手北中学校でも、「あいさつで笑顔いっぱいキャンペーン」を生徒会で企画し、小学校や地域でのあいさつ運動に取り組みました。また、十文字中学校では、小中合同あいさつ運動として、６月、７月に小学校を訪問して、あいさつ運動を行いました。児童会と生徒会とが一緒になって活動することで、中学校の生徒会活動や、十文字中学校で伝統の一つとしているあいさつの大切さを小学生に伝えることができました。

○横手清陵学院中学校　柴田侑紀　続いてご報告させていただきます。

あいさつをさらに広げるために、地域と連携した取り組みを行いました。学区の通学路で地域の方々に進んであいさつをしたり、地域の方々と一緒にあいさつ運動を行なったりしました。

山内中学校では、「駅前あいさつ運動」を実施しています。この活動は、朝、山内中生が相野々駅前に集合し、駅を利用する方々にあいさつをするという活動です。この活動を行ったところ、地域の方々からお礼の手紙を頂き、この活動を通して、さらに地域とのつながりを深めることができました。

横手清陵学院中学校では、週２回生徒会執行部による朝のあいさつ運動を行っています。毎月１回、横手地区少年保護育成委員会の方々が朝のあいさつ運動のために来てくださるので、一緒にこの活動を行っています。また、「さわやか清陵運動」と称し、中学校・高校の交通安全委員や生活委員が合同で通学区数ヶ所に分かれて、あいさつと交通安全を呼びかける活動も行っています。これらの活動を行った結果、あいさつの輪の拡大を図ることができ、活動範囲や活動に関わってくださる人の幅にも広がりが出てきました。

以上で「あいさつ」についての報告を終わります。

○佐藤忠久　議長　次に、「つながり」について説明を求めます。

増田中学校、木村和さん。

同じく、後藤海斗さん。

横手南中学校、山本朱莉さん。

○増田中学校　木村和　横手市の中学校で行ってきた「つながり」の中の、異学年交流活動の取り組みについて報告します。

まず、共通実践として、市内の中学生全員が創快宣言を受け、皆が仲間だということを意識して生活するために、この「創快バッジ」を着用しています。部活動でもつながりを大切にし、各校で横手市総体や各種コンクールに向けた激励集会を行なったり、応援の気持ちが形として残るように、激励旗やメッセージカードの作成をしたりしました。

その他にも、それぞれの学校の校風や特徴に応じた取り組みも工夫しています。例えば、他の学年や学級の朝読書や給食準備の様子を参観する「お互いの学年・学級を見合う会」。学級の枠を取り払って給食を食べる「ふれ合い給食」。異学年の仲間と清掃活動を行うという取り組みもありました。これらを実施することで、自分たちの学年にはない良いところを見つけ合ったり、行動を参考し合ったりすることができました。

横手清陵学院中学校では、他の学校にはない、高校生とのつながりを活かす活動もしています。１年間の行事は数多くあるわけではありませんが、異学年の生徒と盛り上がることで、自然と学校に一体感が生まれました。

○増田中学校　後藤海斗　私たち増田中学校では、今年度朝の全校あいさつ運動に、体育祭のときに作った色組を活用してみました。色組というのは、学年・学級の枠を取り払い、全校生徒を赤・白・青・黄

の４色に組み分けたものです。目的は、色組で培った一体感を活かし、さらに日常生活に展開することで、異学年の関係を密にするためです。生徒の中からは、「リーダーシップの大切さがわかった」「下級生には、下級生の役割があることがわかった」などという声があがっています。１グループ７～９人に分けているため、１か月に１回という少ない活動ですが、小さなことの積み重ねが大事だという思いで続けています。

このように創快宣言の「つながり」を意識するだけでも、こんなにも多くの成果を得ることができました。これからは今以上に発展させるために「何か新しいことを始める」ではなく、今行っている活動に改善を加え、目的をはっきりさせ、それぞれの役割を一層充実させていきたいと考えています。

これで、異学年交流活動の報告について終わります。

○横手南中学校　山本朱莉　引き続き、ボランティア活動の推進、その取り組みについて報告します。

まず、本校では「地域ボランティア」という小中合同のクリーンアップ活動を行っています。事前活動では、中学校に３つの小学校が集まり、ボランティアを行う上での注意点や心掛けを確認し合いました。当日は、各町内ごとに集まり、クリーンアップやお願いされた活動に取り組みます。

横手北中学校では、漁業組合の方と協力して横手川のクリーンアップを、平鹿中学校では、地域の方々とＪＲＣ委員が連携してクリスマスツリーの飾りつけを行いました。この他にも、各校独自に様々なボランティア活動を行っています。

そして、ボランティア以外の「つながり」の活動について、本校では学校祭にお越しいただいたお客様に感想を書いてもらうコーナーを設置しました。これは昨年度からの活動である「想いを形にキャンペーン」を発展させたものです。お客様からは、嬉しいお言葉をたくさんいただきました。山内中学校では、給食センターの方を、横手明峰中学校では、伝統芸能を教えてくださった方を学校祭にお招きしました。お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝え、より一層つながりを感じることができました。

このように、今年は「つながり」の中でも、特に異学年や小学生、地域の方々とのつながりを意識した活動を多く取り入れてきました。このような取り組みにより、創快宣言が確実に横手市で浸透してきていることを実感しています。

以上で報告を終わります。

○佐藤忠久　議長　ただいまから報告に対する質疑を行います。通告により、質疑は順番をもって許可いたします。11 番加藤勝義議員に発言を許可します。

11 番加藤勝義議員。

○１１番（加藤勝義議員）　皆さん、こんにちは。11 番の加藤勝義と申します。よろしくお願いいたします。

私、いつになく、すごく今緊張しておりまして、皆さんも緊張しておるのかなと思いましたら、先ほどの説明をお聞きした中で、全然緊張していないなというふうに思って、素晴らしいなというふうに思っています。私はいつもの定例会の質問の方が楽だなと、ドキドキしておりますので、よろしくお願い

いたします。

昨年に引き続きまして、Ｙ８サミット創快横手市議会の開催であります。昨年の創快宣言を受けまして、今回はより具体的な形にするとしたことを踏まえまして、私の方からも具体的な質問を２つさせていただきたいというふうに思っています。

まず１つ目ですが、「認め合い」の項目の中で、いじめをなくすための取り組みについてであります。具体的に事例を申し上げますが、いじめは人の一生をも変えます。先頃、隣県の岩手県矢巾町で、中学２年生の男子生徒が電車に飛び込み、自ら命を絶った事件が発生いたしました。本当に残念なことでありますが、男子生徒は昨年からいじめを受けていたといいます。このように、いじめが原因で起きる事件が発生していることに対しまして、どのように思っておられるのか。また、どうすればこのような事件がなくなっていくのか、まずお伺いをいたしたいと思います。お願いいたします。

○佐藤忠久　議長　十文字中学校、内藤学哉さん。

○十文字中学校　内藤学哉　お隣の岩手県で中学生が自殺した件につきましては、大変痛ましい事件ととらえています。横手市では、絶対にこのようないじめは許してはいけないと、Ｙ８メンバーで確認し、決意を新たにしました。いじめのもととなっているのは、友達の悪いところを見つけ、からかったり、言いふらしたり、時にはＳＮＳに書き込んだりすることだと思います。

そこで、十文字中学校では、今年「ほめ合い月間」を企画、実行しました。資料２にその一部を載せてありますので、そちらをご覧ください。友達の良いところを積極的にほめ合うことで、望ましい人間関係を築くことができ、良い雰囲気の学校づくりに貢献する企画だったと感じています。また、普段は目立つことが少ない人に対しても、意識的にほめ合うことで、より多くの人に満足感や存在感を感じてもらうことができたと思います。

以上です。

○佐藤忠久　議長　横手明峰中学校、佐々木快盛さん。

○横手明峰中学校　佐々木快盛　まず、いじめは決してあってはならないものだと思います。一人ひとりの大切な命を守っていくためにも、どんな場合においても「いじめた方が悪い」という意識を生徒全員が共有することが大切です。岩手県の事件に限らず、いじめは未然に防ぐことができるものだと思います。いじめを未然に防ぐためには、学校全体で協力し、チームとしての一体感をもって過ごせる環境を作ることが大切です。

そこで、横手明峰中学校では、「ほめほめの木」を設置しました。こちらの写真に写っているのが「ほめほめの木」です。この「ほめほめの木」を通して、温かいメッセージの交流を行っています。

「ほめほめの木」とは、明峰中で共に過ごす仲間の良いところを見つけて付箋に書き、木に貼っていくという活動です。多くの人の良いところが紹介されることで、書いた人、書かれた人だけではなく、回りの人もたくさんの人の良いところを知ることができ、コミュニケーションをとりやすい環境にしています。玄関ホールに掲示するだけでなく、昼の放送で紹介したり、文化祭で来校してくださった地域

の方や保護者、小学生にもメッセージを書いていただいたりして、とても心が温まりました。この活動を通して、お互いに認め合い、向上しようとする雰囲気ができた気がします。

このような活動に意欲的に取り組むことで、学校生活が充実し、このような悲しい事件をなくしていきたいと思います。

以上で答弁を終わります。

○佐藤忠久　議長　11 番加藤勝義議員。

○１１番（加藤勝義議員）　ありがとうございました。共通している内容は、相手の立場に立って、相手を認める、認めていく。そこから、自分の考えであったり、お互いに理解を得ていく。そう共通したことだろうと私は思っております。本当にありがとうございました。

それでは、もう１つの質問に移りたいと思います。同じ項目の情報機器を使用するためのモラルについての取り組みについてということで、コンピュータや携帯電話、スマートフォンなど、情報機器が普及しています。生活する上で欠かせない必要なものとなってきました。これからの情報社会で新しい情報を得ることのできる大切なツールとなっています。しかし、使用方法を間違うと顔が見えないことや個人が特定できないことの中で、非常に危険なツールとなることもあり、児童生徒が巻き込まれる事件も多く、誹謗中傷やネット上のいじめなどが発生しています。正しく活用するために、中学校生活の中で、どのように取り組んでおられるのか、取り組んでいくのか、お伺いをいたします。お願いいたします。

○佐藤忠久　議長　横手明峰中学校、佐藤瑠衣さん。

○横手明峰中学校　佐藤瑠衣　多くの情報が氾濫している情報社会となっている現在では、情報端末を利用することは、私たちに多くのメリットをもたらします。しかし、そこには使い方を誤ると大きな落とし穴があることも間違いありません。そこで、私たち横手市の中学校では、使用方法や決まりを考える様々な活動を行っています。その１つとして、横手明峰中学校で行っている活動を紹介します。

私たち横手明峰中学校では、今年「ＭＨＲ活動～明峰ハートウォーミングリレーションシップ～」の一環として、情報端末の使用について考える活動を行ってきました。まずは、現在の使用状況やトラブルの有無についてのアンケートを行いました。そして、学年ごとに課題を分析しました。上の写真が「ＭＨＲ集会」の様子です。下の写真が、それぞれの学年で立てた目標をホールに掲示している様子です。そこから一人ひとりの自立的な使用を促すために、「明峰個人宣言」という目標を立てました。また、情報モラルの正しい知識を身につけるために、講師の先生をお招きし、講話をいただきました。

このようにして、情報端末の使用方法の向上へ向けて活動してきた結果、２回目のアンケートでは各学年で端末使用時間が減少し、トラブルがほぼゼロになる、相談する相手を見つけることができたなどの改善されてきたことがわかるデータを得ることができました。

今後は、さらに安全で上手な使用方法を定着させていくために、Ｙ８で横手市の中学生共通で行う情報モラルの啓発などの活動に取り組んでいきたいと思います。

以上で答弁を終わります。

○佐藤忠久　議長　十文字中学校、内藤学哉さん。

○十文字中学校　内藤学哉　十文字中学校では、「十中ＳＮＳアクション」を生徒会として決定し、ネットトラブルを決して起こすことのないように、また、ネットトラブルに巻き込まれないように、普段から意識して学校生活を送っています。こちらが「十中ＳＮＳアクション」です。資料２にも載せてあります。

意識させる方法として、常に目に入るように、各学年ホールに「十中ＳＮＳアクション」のポスターを掲示しました。こちらがその写真です。お手元の資料３をご覧ください。ホールは学年共有スペースであり、教室に行く際には、必ず通るルートとなっております。そこに貼ることで、できるだけ多くの生徒の目に触れるようにと考えました。また、生活記録ノート「木」の前の方のページに「十中ＳＮＳアクション」を縮小印刷したものを貼り付け、毎日日記を書くときに目に触れるようにしました。

お手元の資料３をご覧ください。その結果、ネットトラブルがなくなり、時間を意識して使う生徒が増えてきたなどの成果が表れました。横手市の学校全てが、このようなＳＮＳに関する活動に取り組んでいます。

現在、全国的にＳＮＳを利用した犯罪や性被害が増えていることがニュースで毎日のように報じられています。横手市の中学校では、未然にこのようなことを防ぐ取り組みを自分たちで決定し、お互いに意識しながら、ルールを守って生活していくことで、ネットトラブルから自分の身を守る力をつけていこうとＹ８メンバーで話し合っています。

横手市の中学生は、これらのことを常に頭に入れながら、ネットトラブルを起こさない、ネットトラブルに巻き込まれない、インターネットの加害者や被害者に決してならないように、これからも気をつけながら学校生活を送っていくことを誓います。

以上です。

○佐藤忠久　議長　11 番加藤勝義議員。

○１１番（加藤勝義議員）　ありがとうございました。コミュニケーションをとる方法はいろいろ情報端末を利用したりとあるんですが、言葉も、実際面と向かってお話するということも大事だと思います。言葉っていうのは、表情が出たり、言葉の強弱が出たり、その人の思いを間接的に受け取れるもの、会話というものもある。ＳＮＳも良いんですが、その場その場で使い分けをした方が、もっとコミュニケーションがとれるのかなと思います。本当に皆さんのご答弁ありがとうございました。

「認め合い」ということでお聞きしましたが、人間は皆それぞれ個性があります。１人として同じ人はおりません。スポーツが得意だったり、国語や芸術や音楽が得意だったり、様々なお友達がたくさんおります。先ほど来話がありましたように、それぞれ個性の違う皆さんが一緒に学校で生活をしているんです。やはり、そこはお互いに認め合ったり、理解をしたり、そうすることで伝え合うことができる。そうすれば、皆さんが１年間検討してきた「認め合い」ということにつながっていくだろうと、私は思

っておりますので、ぜひ、これからも相手のことを思い合って、理解をして、それぞれ皆違う人ですから、個性がそれぞれありますから、理解をしていただきたいなと思います。

そして、我々大人も皆さんの「認め合い」をさらに構築しまして、人生の経験者と言いますか、結構年をとっているので、結構長い間生きていますので、いろんなアドバイスができればなというふうにも思いますので、これも家庭あるいは先生に対しても同じだと思います。心配事があったり、そういうことがあったら積極的に相談をして、解決していくように、ぜひ楽しい学校生活、そして、これからの生活を送っていただければなというふうに感じた次第です。

今日は本当にありがとうございました。これで終わります。

○佐藤忠久　議長　１番髙橋和樹議員に発言を許可いたします。

１番髙橋和樹議員。

○１番（髙橋和樹議員）　皆さん、こんにちは。髙橋和樹と申します。私には、いま小学校１年生と５年生の女の子の子どもがおります。今、子育て真っ最中であります。

普通議会が始まりますと、皆さんの中央に議長という方がいらっしゃいます。我々は、議長の発言の許可をいただかないと発言はできません。そして、議場の中には厳しいルールがあります。間違った言葉や間違った方向に質問が進んでいくと議長からストップをかけられたり、発言を議事録から消されたり、そういうことがあります。今日はいつになく、言葉に気をつけて皆さんに質問したいと思いますので、最後までどうぞよろしくお願いします。時間が限られていますので、早速質問に入らせていただきます。

１つ目のいじめをなくすための取り組みについて、皆さんに通告しているとおり、今回はアニメ「ドラえもん」の中から質問をさせていただきます。

最初に私のいじめに対する気持ちといいますか、１つだけ聞いてください。「いじめられる人は絶対に悪くない」ということ。それと「いじめられる人を強くするのではなくて、周囲の人たちが守る」ということをまず始めにお話します。

「ドラえもん」の登場人物の中にいろんな方がいますが、ドラえもんが主役なんですが、のび太君をはじめとする同級生のグループは、資料によりますと、1964 年、昭和 39 年の生まれだそうです。私が昭和 38 年。ですから、のび太君たちは私より１つ下なわけです。それも頭に入れて聞いてください。

皆さんのほとんどが、小学生時代に「ドラえもん」を見て育ってきたと想定します。アニメの中でドラえもんが主役でありますが、のび太、ジャイアン、スネ夫、しずかちゃんと同級生が絡んでストーリーが展開していきます。すると、おきまりのジャイアンとスネ夫がいじめ役としてのび太に絡んで、のび太はドラえもんに助けを求めてストーリーが進んでいきます。ところが、最後には皆が認め合って、１話が終わるような気がするのですが、そう思うのは私だけでしょうか。それを見て育ってきた皆さんは、どんな感情をもって、ジャイアンとスネ夫の２人を理解してきたのか。または、理解してこなかったのか、質問させていただきます。

今、皆さんがここにいる私を見て、どう見ているのか。私は果たして「ドラえもん」の中でどの立場にあるのかと思われている方もいらっしゃるかもしれません。私もどう見られているのかすごく興味があります。私の学生時代のポジションについては、最後にお話したいと思います。

あわせて言わせていただけるのであれば、人を顔や外見、ルックスとかで判断しては絶対いけません。これは大人になっても、このルールは守ってください。

それでは１つ目の答弁をお願いします。

○佐藤忠久　議長　横手明峰中学校、髙橋快渡さん。

○横手明峰中学校　髙橋快渡　ジャイアンとスネ夫は、よくのび太に対して暴力をふるっています。のび太は、ドラえもんに「ジャイアンとスネ夫にまたいじめられた」と泣きながら助けを求めている場面がしばしば見られます。このように暴力で問題を解決しようとするのは間違っています。このことから、２人はのび太をいじめているのではと感じます。しかし、時にはのび太と協力して、問題を解決しようとしたり、目標へ向かって頑張ろうとする２人の姿が見られます。このような場面からは、ジャイアンとスネ夫は、人のために力を尽くすことができると感じます。

人は誰でも不満を抱えることはあります。しかし、それを暴力にしてしまうと何も解決しないし、相手に気持ちも伝わりません。この２つの場面があるのは「人には正しい心が必ずある」ということを気づかせたいのではないかと感じます。

私たちにあるこの正しい心を全面に出して、向上心にあふれた中学校生活を行える雰囲気づくりが大切だと思います。

以上で答弁を終わります。

○佐藤忠久　議長　１番髙橋和樹議員。

○１番（髙橋和樹議員）　ありがとうございました。

私はいつも皆さんの活動を学校のホームページやブログなんかで常にチェックしています。それが皆さんの活動の全てではないと思いますが、実際私の耳に、この中におります生徒の方が弱い友達を助けたりという話を実際耳に聞こえております。

私たち議員は、私の後ろに今日は 24 名の議員の方がおりますけれども、この議員の皆さん、私も含めて皆が出木杉君やしずかちゃんではない。各々学生時代には、のび太であったり、ジャイアンであったり、スネ夫であったり、もしかするとジャイ子さんもいたかもしれません。今は、それぞれが市民の思いを受けて、議会の場で市民の声を代弁しております。個々に意見が食い違って議論することがあっても、目指す方向はいつも同じです。皆さんもこの場に選ばれていらっしゃっているわけですから、ただ、私が見た限り、ひょっとすると出木杉君としずかちゃんだけなのかなという感じもしないでもありません。

もし、出木杉君としずかちゃんだけでの議論であれば、問題や課題の全てを解決することはできるのでしょうか。私は疑問に思います。

例えば、いじめっ子のジャイアンとスネ夫を皆で無視したらどうなりますか。その日から立場が逆転して、スネ夫やジャイアンがいじめられっ子になる。そういった何かのきっかけで、ここにいる皆さんがいじめっ子になる可能性もあるんです。また、出木杉君やのび太君だけの５人のグループがいたとします。時間が経つにつれて、その５人の中からジャイアンやスネ夫が生まれてくる、そういう法則もあると聞いております。

この場にはいないと思われるのび太やジャイアン、スネ夫ともちゃんと皆さんが話し合って、そして認め合って、今後の活動に活かしていただきたい。それを強く希望します。そして、出来ることなら、生徒皆がそれぞれの目から見たドラえもんを探して欲しい。それが先生やご家族の方でもいいです。また、皆さんがドラえもんであっても良いのではないでしょうか。

では、２つ目の質問に入ります。情報モラルの取り組みについて。取り組みの中でアンケートを行ったとありますが、それを皆さんはどのように分析されたのか。また、ここにある創快宣言文の終わりに「以上４つの宣言文のもと、私たち全員がこの取り組みを地域や家庭に広げながら、安心して過ごせる創快な学校生活を作ることをここに宣言します」とあります。皆さんが学校から家庭に帰ってから、情報モラルについて、その中で家族と話し合って、それがどう活動に活かされているのかを質問いたします。お願いします。

○佐藤忠久　議長　十文字中学校、吉田晃明さん。

○十文字中学校　吉田晃明　「十中ＳＮＳアクション」策定までの流れを紹介します。はじめに、全校生徒を対象にアンケートを実施しました。アンケートの中身は、「情報端末を持っているか」、「ＳＮＳが送信されて、返信や返答に困る時間はいつか」、「これまでにＳＮＳで嫌な思いをしたことがあるか」の３つです。

質問の１つ目、「情報端末を持っているか」の質問には、80％の生徒が「持っている」と回答したため、学校全体の課題としての取り組みを目指すことにしました。

情報端末の使用時間についても調査しました。その結果、全校生徒の半数が「午後 10 時を超えてからのメッセージを不快に思っている」というデータが得られたので、ＳＮＳの使用は 10 時までというルールを設定しました。

３つ目の質問、「これまでにＳＮＳで嫌な思いをしたことはあるか」には、「友達の悪口を見つけた」、「別のユーザーに荒らされた」、「嫌な画像が送られてきた」、「勝手に画像をアップされた」といった回答がありました。これらを踏まえて、生徒会企画部で原案を作り、その後各学級でも話し合ってもらい、意見を求めました。各学級から意見を集めた上で、正式なものとして決定し、夏休み前ＰＴＡで行われた「ネットトラブルに関わる講演会」を聞いた後に、保護者を前にして自分たちの取り組みを発表し、保護者にも協力をお願いしました。こちらがその時の様子です。資料４にも載せてあります。こうした十中での取り組みをＹ８サミットでも紹介し、自分たちでルール作りをする機運を高めました。

以上です。

○佐藤忠久　議長　横手明峰中学校、佐藤瑠衣さん。

○横手明峰中学校　佐藤瑠衣　情報モラルについて、家族と話す機会ということで、先日行われた「アウトメディアチャレンジデー」があげられます。この活動は、自分にあったコースを選択し、どのコースならば今の自分にできるかを考えて実践しました。実践した感想用紙を見ると「自分がこれだけメディアに依存しているとは思わなかった」という意見や「いつも情報端末の使用に使っている時間を家族と過ごす時間に変えることができて良かった」という意見が多くありました。

このことから、定期的にメディアから離れ、自分の使用方法について家族と話す機会を持つことで、さらなる改善につなげていこうと思います。

以上です。

○佐藤忠久　議長　１番髙橋和樹議員。

○１番（髙橋和樹議員）　ありがとうございました。情報モラルの問題につきましては、まず情報機器というのは、ハードやソフト、それから回線料金などを含めて家族の協力がなければ持てない。皆さんのお小遣いだけでは無理なのかなと想像するわけです。持っている人、持っていない人、全ての人がその利用する価値や目的をもっと家族の方と話し合っていただきたい。使ってはいけないとか見てはいけないということを先生やお父さん、お母さんからいけないとばかり言われても、皆さんは反発するだけだと思います。どうでしょうか。ぜひ、家族との会話を課題解決の取り組みへと活かしていただきたいと思います。

最後になりました。私は学生時代から皆からジャイアンだと言われておりました。でも、私の親友は、ひょっとすると私のことをのび太だと思っております。親友というのは、自分の弱いところを見せられるからかなと私は思います。今からでも遅くはありません。私と一緒に皆のドラえもんになれるように努力しませんか。

以上、質問を終わります。ありがとうございました。

○佐藤忠久　議長　６番遠藤忠裕議員に発言を許可いたします。

６番遠藤忠裕議員。

○６番（遠藤忠裕議員）　皆さん、こんにちは。会派新政会の遠藤忠裕です。出身は、平鹿町浅舞です。よろしくお願い申し上げます。皆さんを前にしますと、私も年が年でございますから、孫という世代の皆さんに質問をしなければいけないという、大変背中に重石を背負わされているなという思いでここに立っております。ただ、孫というのは、おじいちゃん、おばあちゃんにとっては、無条件で可愛いが前提でございますから、そんな難しい話をしませんので、安心して答弁をお願いしたいと思います。

まずは、これまでＹ８サミットのメンバーの皆さんが、日頃頑張ってこられた活動に対しまして、敬意を表しておきたいと思います。本当にご苦労様でございました。

私は、４つの皆様方の創快宣言の柱の活動を見て、私が担当する項目が「感謝」という項目でございましたので、いろいろ自分なりに考えてみました。皆さんがいろいろ活動している中で、「感謝」とは

一体どういうことなのかなということを考えてみました。自分なりの結論を見てみますと、「感謝」とは、相手、自分の周りの人々に対して、まず尊敬と敬意を持たなければならないことではないかなというふうに思いました。また、「感謝」とは、人から与えられるものではなく、自分自身の心に確立させていくものではないかなというふうな結論にも達しました。要するに、私はこの４つの宣言の、本当に基本になるものだと思いました。

昨年、青山豊議員が「感謝」について質問しております。その際も、青山議員から基本の「き」であり、礎だというような発言がございました。私もそう思います。そこで、皆様方が「感謝」の活動の中で、「ホットポスト」とか、あるいは「カードの交換」、「想いを形にキャンペーン」などをあげておられましたし、また、もう１つ「給食残飯ゼロ週間」というのがございました。私は、成長期にある中学生の皆さんが、なぜこの活動を「感謝」という中で、実践項目として選んでいるのかなということで、疑問に思いました。そこで「給食残飯ゼロ週間」という活動の中身をもう少し詳しくご説明いただければありがたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

○佐藤忠久　議長　山内中学校、永沢陽さん。

○山内中学校　永沢陽　「給食残飯ゼロ週間」について説明します。Ｙ８サミットでは、校内に向けた感謝の思いを伝える活動の他に、校外に向けて発信できる感謝の気持ちについて話し合っています。その中で、私たちの成長に欠かせない栄養バランスを考え、毎日美味しい給食を作ってくださっている方に感謝の気持ちを表したい。そのために各校で共通実践できることは何かと考えました。ご飯を作って嬉しいときはどんなときだろうか。私たちが思いついた１つは、残さず全部食べることです。これは言葉だけでなく、目に見える形で感謝を伝えることができます。しかし、食事については、個々の体調などもあり、強制はできないと考えました。そこで、これまで各校で取り組んできたことなどを参考に意識して取り組む週間、キャンペーンという形で、全校生徒が意識して取り組むことができるように呼びかけ、実践したのが「給食残飯ゼロ週間」です。

本校では、呼びかけをする前から給食の残食はほとんどありませんでしたが、この活動を通して、全校生徒が食事への感謝の気持ちを改めて感じるきっかけになりました。

感謝の思いは広がり、給食センターの職員の方々を学校祭に招待することもできました。これは全校集会で生徒から提案されたことをきっかけに実現した活動です。Ｙ８サミットで発信した１つの共通実践が感謝を伝える活動につながりました。

「給食残飯ゼロ週間」を通して、私たちは食事を作ってくださっている方々の思いや願いに触れることができ、感謝の気持ちともに食への意識を高めることができたと思います。

以上で答弁を終わります。

○佐藤忠久　議長　６番遠藤忠裕議員。

○６番（遠藤忠裕議員）　ありがとうございました。大変気持ちは伝わりました。

私事なんですが、今から数十年前になるんですが、有名な大学の駅伝部の合宿というものを、私も陸

上競技をやってきた関係上携わった経緯がございます。その時に、専門の管理栄養士さんがおいでで、献立を送られてくるわけです。その献立の中身は、当然カロリー計算、栄養素、そういうものが当然含まれた献立、それでいろんな材料が出てくる。問題はなぜそういうふうにするかということなんです。体力がついている人、体力の中でもこういう部分を強くしなければいけないよという人、そういうものを自然の栄養素の中から体に取り入れ、健康な体を作っていく。そして競技をしていくというような基になる献立です。

私がなぜこれを例として出したかと言うと、さっき説明の中で、意識をしたと。その意識は大事だと思います。私のここが弱いから、ここの部分を強くするためには、こういうことをしていこう。こういう活動をすることで、強い体を作っていくんだというような次の段階に進んでいく。これが実際は、意識をすることで、その働きが倍、３倍という形でいくわけなんです。無意識に食べていると単なる食べ物を食べているという話にもなりかねません。そこの意識の部分を高めていっていただきたいなという思いを持ちました。

もう１つは、私先ほど、感謝というのは心だ、気持ちだというような、あるいは、相手に対する敬意だ、それが感謝だというようなお話をさせていただきました。この実践活動が本当に皆の心の中に、自分自身から出るような実践活動であってほしいなと思います。よくあります。形だけ整えて中身が伴わないということがよくあります。そういうことでなく、心から溢れ出るような、皆さんの実践活動であってほしいということをお願いし、あるいは願いながら、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○佐藤忠久　議長　23 番阿部正夫議員に発言を許可いたします。

23 番阿部正夫議員。

○２３番（阿部正夫議員）　こんにちは。23 番、会派市民の会の阿部正夫と申します。よろしくお願い申し上げます。

今Ｙ８サミットに関わられた生徒の皆さん、そして、後ろで傍聴されている後輩諸君、いろいろ今日の席に来るまで頑張ってこられたということに心からの敬意を表するものであります。

私に与えられた質問事項は、４つの柱の中の特に「あいさつ」というところについてでございますけれども、その前に、実は私、皆さん方くらいのときに部活動として剣道部を選びました。そして、皆さん方くらいのときに発足したスポーツ少年団というものに関わって、今もずっと関わり続けて、今も剣道を習っております。その剣道の最初に習うことが、形として、作法として習うのが「礼」なんです。置き換えると「あいさつ」になるわけです。武道一般に、「礼に始まり、礼をもって行い、礼に終わる」と言われておりますが、特に剣道の場合、お互いに激しく打ち合う武道のために、「打って反省、打たれて感謝」という言葉があるぐらいに、前に質問された方々が言われた「認め合い」あるいは「感謝」ということにつながることですけれども、それをおおいに胆に銘じた形で相手に接することだというふうに習ってきております。「交剣知愛」という言葉で表されておりますが、それこそ皆さん方の言

っている「認め合い」とか「感謝」とか「つながり」、ここに一致する教えだなと。Ｙ８の皆さん方の教えと合致する教えだなと改めて共感しているところであります。

いまスポーツ少年団の団員に、皆さん方よりもずっと小さい子がいますので、礼を難しい言葉ではなくて、剣道を習うということは、「靴揃え、大きな声であいさつ、返事」と伝えてあります。「剣道を習うということは、靴を揃えることです。そして何よりもあいさつをすることです」という伝え方で今一緒に学んでいる、習っているところであります。家庭や学校で、あるいは地域で、あいさつをしようということは、皆さん当然のこととしてわかっていることだと思いますけども、自分から、しかも習慣としてあいさつができるようになるには、ある程度覚悟がいるものだとは思います。１人では勇気がいることでも皆で取り組めば、お互いに支え合ってできることは多くあるものだと思います。あいさつし合う環境、雰囲気づくり、そのことも大事なことなんじゃないかなと思います。

先ほど、開会式にありましたように、今回のＹ８サミット創快横手市議会は、去年採択した４つの柱を更に形として実践していく、そして、更に良くしていこうということが今回の開催の趣旨とされております。この形としてということが、「感謝」あるいは「認め合い」、それから「つながり」ということを最初に形として表しているのが「あいさつ」なんじゃないかなとさえ思っております。

一番のきっかけ、どの議員さん方も皆さん方と会ったときの第一声は「こんにちは」でした。これが朝だったら当然「おはようございます」。皆さん家に帰れば「ただいま」、「いただきます」、寝るときは「おやすみなさい」。いろいろ声に出してあいさつをするというのが他の４つの柱につながっていく、一番のきっかけになっていくものじゃないかなと思っています。宣言の中の柱「あいさつ」に謳われていることが日常の皆さん方の活動の中で実践されていけば、他の「認め合い」「感謝」「つながり」の大半のことがもうすでに成立し、快適な学校生活が送っていける一番のきっかけづくりになるんじゃないかなと思います。

より良い人間関係を作っていくことが、この創快宣言の、創快横手市議会の一番の目的であろうかと思いますし、先ほど実践報告の中に立派な報告がありましたけれども、更にもう少し詳しく各校の活動その他をお知らせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○佐藤忠久　議長　横手北中学校、髙橋宝久斗さん。

○横手北中学校　髙橋宝久斗　日常生活においても、元気なあいさつを広げるために、様々な取り組みが各中学校で行われています。私からは主に、横手北中学校、横手明峰中学校、平鹿中学校、十文字中学校の取り組みを紹介します。

朝のあいさつ運動については、各中学校で盛んに実施されています。横手北中学校や平鹿中学校では、生活委員会の活動の１つとして、毎朝学校の昇降口や校門に並び、登校してくる生徒や先生方に元気なあいさつを交わしています。

横手北中学校で行った「あいさつで笑顔いっぱいキャンペーン」については、資料５をご覧ください。この資料は、生徒会で全校生徒に向けて作った生徒会報です。資料５にあるように、学年ごとにテーマ

を決めて、あいさつ運動に取り組みました。その時の様子が資料６です。３年生は、自分の住む地域の通学路に立ち、小学生だけでなく、高校生や地域に住む方々にもあいさつをしました。２年生は、自分の出身小学校に集合し、登校してきた小学生とあいさつを交わしました。また、創快宣言を小学生にも知ってもらおうと、創快宣言の書かれたプレートを児童会の代表に贈呈しました。１年生は、学校の昇降口や校門付近であいさつを行い、学校全体のあいさつ向上に励みました。来年度は、横手北小学校が開校するので、朝倉小学校と共にさらに連携を強めていきたいと思います。また、十文字中学校では、児童会と生徒会が協力し合って合同のあいさつ運動を行いました。

朝のあいさつ運動以外の活動として、横手明峰中学校では、校内の廊下の一部を「あいさつロード」として、この廊下を通るときは、学年や先生、生徒など関係なく、元気にあいさつを交わそうという取り組みです。他学年の生徒や先生方とあいさつをすることで、学校全体のつながりを深めることができました。

これで、説明を終わります。

○佐藤忠久　議長　横手清陵学院中学校、伊藤正虎さん。

○横手清陵学院中学校　伊藤正虎　各学校で行っている活動と横手市内中学校共通で行っている活動をご紹介いたします。先ほどご報告させていただきましたが、横手清陵学院中学校では、朝のあいさつ運動を実施しています。毎週月曜日と金曜日の朝に生徒会執行部が校門前に並んで、登校してくる生徒にあいさつをするという活動です。この活動では、「自分から大きな声であいさつをする」、「あいさつをされたらきちんと返す」という意図を込めて行っています。また、あいさつの場所や対象を広げようと横手地域局前でも行いました。

朝のあいさつ運動は、横手南中学校でも行っています。他にも、増田中学校では、小学生と連携して、町行く人々にあいさつ運動を行っています。

次に、Ｙ８で話し合い、横手市内の中学校で行った共通実践についてご紹介いたします。「あいさつチェック」です。朝のあいさつや授業の始めや終わりのあいさつなどを先生方に評価してもらい、点数化し、クラス前にランキングを図り、全校生徒に紹介するという活動です。この活動では、クラス全体で協力しなければならず、クラスの中で、「認め合い」「つながり」が生まれ、より良いクラスにするという意図を込めて活動をしています。

これで各校の活動について紹介を終わります。

○佐藤忠久　議長　23 番阿部正夫議員。

○２３番（阿部正夫議員）　ありがとうございます。

先日、学級崩壊の危機を免れた取り組みがテレビで放映されておりました。それは、言葉の使い方による解決といった内容でありました。好きな言葉、嫌になる言葉を出し合って、嫌な言葉は使わない、好きな言葉を使い続けることでクラスの中の雰囲気が変わって、だんだん良くなっていったそうです。その好きな言葉の上位、「ありがとう」という言葉がありました。「ありがとう」という言葉が大事なの

は皆さんわかっていることですけども、あいさつを普段していくのは学校生活ばかりではなく、生きていく中で必要不可欠だということは私たち全員がわかっていますし、私の前に質問した遠藤議員と私は１つしか変わらないから、皆さん方との年の差はそれだけあるけれども、今まで生きていた中でも、本当に「ありがとう」という言葉が大事だということをずっと感じてきて、ますます今その思いを強くしているところであります。このことを皆さんにもぜひ強く心に留めておいていただきたいなと思います。

人と人との付き合いが爽やかで満たされていくと、自然と感謝の気持ちが湧いてくると思います。友達との会話でも、当たり前のように感じているかもしれない家族との会話でも、そして先生とか地域の人たちにも「ありがとうございます」という感謝の気持ちを持ちながらあいさつを実践していけば、学校生活において、いわゆる心地良い雰囲気、良い人間関係につながって、先ほど来、皆で解決していこうという学校の諸問題、いじめ等を含めた諸問題の課題解決に大きく前進できるものだと思っております。実践を通した活動の中から感じたことを伺いたいと思います。お願いします。

○佐藤忠久　議長　横手北中学校、伊藤龍朗さん。

○横手北中学校　伊藤龍朗　これまで小学校を訪問して、小学生に対して積極的にあいさつをしたり、通学路に立ち、地域の方々や通行する小学生、高校生にあいさつをする活動を行ってきました。積極的にあいさつをする立場としてその場にいると、自分も地域という社会の一員で、地域と深くつながっていることに気づきます。また、相手からあいさつを返してもらうと、自分自身を認めてもらえた気持ちになりました。こうして考えてみると、学校生活において「ありがとう」や「お疲れさま」といった言葉は、「私はあなたの頑張っている姿を見ているよ」とか「あなたのおかげです」というような「認め合い」の意思表示になります。互いを認め合うあいさつを通して、友達との友情のつながりを確認し合えると思います。

その親しみのこもったあいさつでも、学校や一般社会の中では、相手に対する礼儀が必要です。地域の方々へのあいさつ運動を通して、相手に対する礼儀を大切にする意識が自分の中で高まってきていると感じます。どの場面でも、適切なあいさつを交わすことが、互いの認め合いにつながると思います。互いを認め合い、つながりを感じることのできるあいさつこそが、いじめなどの問題解決のきっかけになると感じました。

私が感じたことは以上です。

○佐藤忠久　議長　横手清陵学院中学校、伊藤友里さん。

○横手清陵学院中学校　伊藤友里　先程の実践報告にもあったように、朝のあいさつ運動では、自分たちからあいさつをしたら必ず返すという意図をもってこの活動に取り組んできました。開始した当初に比べると大きい声で元気にあいさつをしたり、自分たちから積極的にあいさつをする人が増えたと感じております。また、地域の方々からは「清陵生のあいさつは元気で素晴らしい」というお褒めの言葉をいただき私たちも嬉しく思っています。

「あいさつチェック」では、クラス全体で協力をしなければならず、少しずつですが、あいさつに対

する意識が高まってきたと思います。こちらも朝のあいさつ運動と同様に、開始した当初に比べると、クラス全体のあいさつの質は各段に良くなったと感じております。また、あいさつを点数化することにより、「他のクラスに負けないようなあいさつしよう」「もっと元気なあいさつをしよう」などと生徒一人ひとりのあいさつに対する気持ちや意識も向上してきたと思います。先生方のコメントや点数を見てみますと、こちらも評価が上がっているのがわかりました。皆様のお手元にあります資料７、８の「あいさつチェック」の資料をご覧ください。こちらの資料は、各クラスの点数を週ごとにまとめ、全校生徒に紹介したものです。これらをランキング化し、他のクラスとの差を明確にすることで、皆のあいさつに対する意識を高めることに成功いたしました。皆で元気なあいさつができたときは、一体感を感じることができましたし、自分たち自身も爽やかな気持ちになりました。

これらの「あいさつ」に関する活動を通して、大きい声で元気なあいさつを積極的にする人が増え、それにより回りの人々との絆が深まり、良い方向に向かっていると思います。クラスの中で、「認め合い」「つながり」が生まれ、集団として向上してきたと思います。

以上です。

○佐藤忠久　議長　23 番阿部正夫議員。

○２３番（阿部正夫議員）　ありがとうございます。

まずは、自分からあいさつをしてみましょう。返ってこないことがあるかもしれませんが、皆さんのあいさつで気持ちの良くなる人がいれば、それだけで「創快」なのです。先ほどご報告ありました地域との連携や小学校と共同した取り組みに、本日傍聴席にいる後輩の皆さんにもしっかりと引き継いで、はつらつとしたあいさつの実践を一人ひとりが積み重ねていけば、横手の元気につながっていくものと確信しております。

皆さん方が中学校生活を創快な日々として過ごすことができますよう念願し、今後の活動にご期待申し上げ、私の発言、私からのエールとさせていただきます。

ありがとうございました。

○佐藤忠久　議長　９番播磨博一議員に発言を許可いたします。

９番播磨博一議員。

○９番（播磨博一議員）　皆さん、こんにちは。会派さきがけの播磨博一といいます。今日の質問のラストバッターでございます。今までずっと皆さんのやり取りを聞いていましたけれども、大変素晴らしい答弁をしているなという率直な感じでございます。普段こういった形で当局の市長をはじめ、局長などとのやり取りは、何回かやったことがありますけれども、今日は若い参与の皆さんで非常に緊張しておりますけれども、よろしくお願いしたいと思います。

私に与えられた部分につきましては、「つながり」ということでございました。最初ピンとこなくて、どうしようかなというふうに思っておりました。若干の資料をいただいておりましたので、これを基に質問を進めてまいりたいと思います。

昨年度ですね、中学校の創快宣言、これが制定されました。大変素晴らしい取り組みが始まったものだなというふうに思っておりました。私は、中学校を卒業いたしまして、もう45年。皆さんからしますと、それこそ大昔前に中学校を卒業をしたものですから、こういった取り組みについては、全く想像もつきませんでした。私は旧雄物川中学校の出身でございまして、学校の規模は相当大きかったわけです。１学年が440、50人おりました。その中で、１学年440、50人ですから、３学年ですので、1,500人弱の生徒がおりました。その中での中学生活を送ってきたものですから、同級生、同学年の４百数十人の中にも、今となっては、ほとんど忘れてしまったというと失礼にあたるのですが、なかなか思い出せないという形でおりました。そういったものですから、学校の中でのいじめとか、あるいは、中学校の生活の中であんまりお互いを意識したことがなかったのかなというふうに今は思います。ただ、同じクラスとか、同じ部活をしてきた、同じ釜の飯を食ってきたという中では、すごく良い経験をしたなという思いでおります。たぶん今少子化の中で生徒さん方は少なくなって、今はまとまりの良い学校になってきたなというふうに客観的には思っていましたけれども、さらに一歩進んだ中で、こういった活動が出てきたということに対しては、非常に感慨深いものがあります。

前置きいたしまして、それでは、これまで皆さんが発表されておりましたけれども、各中学校それぞれにいろんな形で工夫を凝らして取り組んできたことについては、非常に大きな前進があると思います。だけれども、去年制定されたばかりですので、言わばまだ基礎的段階と言いますか。これからどんな風にこの活動が発展していくのかなと思うのが、私としては非常に興味があります。今日は後ろの方にも小学生の方々、皆さんの後輩の方々がいらしてるということでございますけれども、その方たちにもどういった形でこの取り組みを伝えていけるのかなと。その部分の工夫と言いますか、あるいは、どういった方向性を持ってこの活動を進めていかれるのかということをまずお聞かせ願いたいと思います。そして、１発目の全市的な取り組みとしまして、創快バッジを皆さんつけておられますけれども、そういった形での取り組みが始まったようですけれども、今後、その取り組みの中におきまして、全市的にこれをやっていこうよという風な取り組みがありましたら、お知らせいただきたいと思います。

○佐藤忠久　議長　横手南中学校、渡辺湧大さん。

○横手南中学校　渡辺湧大　これまで異学年交流やボランティア活動を推進し、学校と地域のつながりを活性化させてきました。今後の活動の方向性としては、これまで行ってきた取り組みを更に広げていくことを考えています。

例えば、これから自分たちが入学するであろう高校で、今年度行ってきた活動の良い点を広め、創快宣言を高校でも広げていく。また、Ｙ８の活動の様子を市報やＦＭよこてさんなどで紹介していただき、多くの市民の皆さんにも知ってもらう。そして、今まで活動してきたことを全市的なものにしていきたいとも考えています。

具体的に言うと、あくまで例ですが、「横手市創快宣言デー」という日を設け、家族や友人など大切な人へ普段言えない感謝の気持ちを伝える企画です。これは市報などに、メッセージカードをはさんで

もらい、各家庭や職場などでメッセージのやり取りを行うというものです。それにより、家族とのつながりや友人とのつながりがより深いものになると思います。この活動は、創快宣言の「つながり」という柱だけではなく、「感謝」という柱ともつながってくると思います。このように創快宣言を具体的な形にし、学校という中だけではなく、地域、市へと広げていくことを実践していければと思っています。

少し話はそれますが、市民のつながりを深めていけるようなイベントがあればとも思います。例えば、山形県の大鍋で作る芋煮会のように、大きく長い鉄板で作るジャンボ焼きそば祭りなど、市民が楽しみながら参加できるイベントを開催するのはどうでしょうか。そして、これからも市民の皆さんにも、Ｙ８の活動を身近に感じてもらえるように取り組みを広げていくことに努めていきたいと思っています。

以上です。

○佐藤忠久　議長　９番播磨博一議員。

○９番（播磨博一議員）　ありがとうございます。

この後どうなるのかなと私心配しておりましたけれども、皆さんが卒業した後ですね。そして、皆さんがこの後高校等に進まれると思いますけれども、中学校を卒業して、この活動を皆さん忘れちゃうのかなと心配いたしましたけれども、良かったです。高校に入って、この活動を広げて、まさに私の期待していたとおりの答弁がありました。なかなか市議会では、こういった期待している答弁がいただけないものですから、本当にいま感激しております。

それとあわせまして、市民の皆さんにも伝えていきたいと。ややもすると、学校という限られた中での活動でありますので、非常に素晴らしい活動をしていてもなかなかそれが外に伝わらないというケースは往々にしてあると思います。皆さんが学習発表会とか、部活とか、そういった形での活動は見えるわけですけれども、こういった形の取り組みは非常に見えづらいと思うんですね。それを芋煮会、焼きそばという形でも、市民と一緒になってそれに取り組むことによって、自分たちの活動を伝えていける。しかもその中にはメッセージがちゃんと込められている。そういった形での取り組み、これも期待しております。頑張ってやっていただきたいというふうに思います。

それから、もう１点、質問項目がございますけれども、それこそ今触りがあったような感じがしますけれども、学校と地域の関係ですけれども、それこそ学校と地域というのは、ウィンウィンの関係にあると思いますし、そうでなければこれは成り立たない関係なのかなと思います。我々市民といたしましては、皆さんは地域の宝というふうに思っております。これからの横手の未来を背負っていける、そういった期待もしておるわけです。いろんな活躍や期待を胸にしている皆さんでありますけれども、私どもはそう思って見ていますけれども、それでは皆さんは私どもの地域、この住んでいる横手、あるいはそれぞれの地域には、どういった期待と言いますか、どういった思いで生活されているのかなということをお聞かせ願いたいと思います。

○佐藤忠久　議長　増田中学校、石田もなみさん。

○増田中学校　石田もなみ　私たちが期待するものは、地域の皆さんとの関わり、活気のある地域づくり

です。特に、活気溢れる地域づくりには、私たち若い世代と地域の方々の協力がなければ、実現できないことだと思います。

例えば、増田中学校では今年度、生徒全員で「蔵の日」に中学生ボランティアとして参加しました。「蔵の日」とは、ご存じの方も多いと思いますが、国の重要伝統的建造物群保存地区として指定された増田町の内蔵が一斉に公開されるイベントです。地域の方々と協力して、蔵の紹介や町案内、商工会の手伝いなどを行い、成功に導くことができました。観光にいらした方からは、「地域のために中学生が頑張っていていいね」とたくさんお褒めの言葉をいただきました。中には、わざわざお葉書をくださった方もいました。お葉書の内容については、参考資料10をご覧ください。このように私たち中学生が地域のために行動を起こす、地域に貢献していくということが、活気のある地域を作っていくために必要なことではないかと考えました。

同様の活動は、他の中学校でも行われており、横手北中学校では、「かまくら接待ボランティア」として、複数のかまくらに生徒を配置し、お客様をおもてなししたり、修学旅行のときに横手市観光協会の方と一緒に東京の商店街で横手の特産品の販売をしながら、ＰＲ活動を行ったりと地域とのつながりを意識した取り組みを行っています。また、この活動を通し、地域の方々と接することは、私たちのコミュニケーション力の実践の場として大きな意義がありました。

活動後のアンケートでは、「楽しかった」「やりがいがあった」「またやりたい」と大多数の生徒が回答しており、次への意欲につながっていることがわかります。さらに、これらのボランティアは、地域の方々とのつながりが形として見ることのできた良い機会になったと感じています。

地域の皆さんの支えがあるからこそ、私たち中学生は、毎日充実した中学校生活を送ることができています。そして、地域の方々との関わり合いは、私たちのやる気にもつながっています。これからも、学校と地域とのつながりをさらに強くしていき、私たちを温かく見守っていただくとともに、増田町のような活動が各中学校区でできるような場を今以上に設定していただければ、活気のある地域づくりはさらに進んでいくのではないかと考えます。そして、先ほど播磨議員におっしゃっていただいたように、私たちも成長や活躍への期待にお答えできるように日々努力して頑張っていきたいと思います。

以上で答弁を終わります。

○佐藤忠久　議長　９番播磨博一議員。

○９番（播磨博一議員）　まさに地域でのボランティア活動を通して、改めて地域の良さ、あるいはこうしていこうよという課題と言いますか、そういったものが皆さんの目にもわかる形で見えてきたのかなと。そして今おっしゃっていただいたようなことが、この市に、私たちに与えられたテーマにもなるのかなと思います。

今回、まだ２年目ですけど、素晴らしい取り組みに成りつつあるなと感じました。こういった形の取り組み、ぜひ将来的にもっともっと繰り返されて、磨かれていくものと思いますけれども、これが全県的に見ても、全国的に見ましても「横手モデル」というふうな形の活動につながっていければなと思い

ます。今日皆さんの後輩も来ていますし、ネットにも流れているという話も聞いています。まさに市民を巻き込んだ形での、今後大きなつながりの場になっていただければ大変よろしいのではないかと思います。

そういった意味で皆さんにいろんな期待を込めまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○佐藤忠久　議長　　皆さん大変お疲れ様でした。本日の議論によって、これまで以上に創快宣言の具体的な形や方向が見えてきたのではないでしょうか。

今年の流行語に「五郎丸ポーズ」がありました。言うまでもなく、今年開催されたラグビーワールドカップで大活躍した五郎丸歩選手がペナルティキック等を行う際のルーティンポーズです。このルーティンポーズを五郎丸選手はなぜ行うのでしょう。個人的な意見ですが、望んだ結果を出すためではないでしょうか。決められた一連の動作を行うことで、精神的にリラックスし、集中力を高めることができるのだと思います。

これは、スポーツ選手だけに限ったことではなく、私たちにも言えることで、例えば、創快宣言の柱の１つ「あいさつ」もルーティンと言えます。朝のあいさつや授業前、授業後、あいさつは学習や行動に切り替わるルーティンで、気持ち良く、また、効率良く学習するために大切なことだと思います。

快適な学校生活を送れるよう、これからも話し合いながら、皆で考え、そして行動していただきたいものだと思います。期待しております。

◎閉会の宣告

○佐藤忠久　議長　これで平成27年Ｙ８サミット創快横手市議会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

午後３時１９分　閉会

地方自治法第１２３条第２項の規定により、ここに署名するものである。

横手市議会議長　　佐　　藤　　忠　　久

横手市議会議員　　塩　　田　　　　勉

横手市議会議員　　髙　　橋　　聖　　悟

報告第１号

横手市中学校創快宣言に基づく取組について

いじめ等を学校からなくし、快適な学校生活の創造を目指した「横手市中学校創快宣言」に基づくこれまでの取組を別紙のとおり報告する。

平成２７年１２月２２日　提出

横手市中学校Ｙ８サミット

「横手市中学校創快宣言」に基づく取組

柱	報　　告
認め合い	**①いじめをなくすための取組** 　生徒同士が校内外で見つけた互いの良いところや行動を称賛し合う活動を行った。各校において、「ほめあい月間」を設けたり、「ほめほめの木」を作成する等様々なアイディアを出して、積極的に良い行動を見つけ、それをメッセージとしてカードに記入したり、掲示したりすることで、互いを認め合おうとする素地や雰囲気が定着した。 **②情報モラルの取組** 　情報機器の使用状況やそれらを巡るトラブル等の実情を知るために各校でアンケートを行う等し、その結果を踏まえて各校で課題を挙げ、どんな対応策が発信できるかを検討してきた。中学生全体に対する情報モラルの啓発とともに、生徒個人の自律的な使用や規範意識の向上をねらいとし、Ｙ８メンバーが主体となって横手市の中学生共通のルールづくりに努めているところである。
感　謝	**①感謝を形に表した取組** 　日頃お世話になっている人や身近な人、友だち等に感謝の気持ちや思いを言葉や行動で伝える活動を行った。例えば、「給食残飯０（ゼロ）週間」や「カードの交換」「想いを形にキャンペーン」等を各校で計画し、日頃なかなか面と向かって感謝の気持ちを伝えることができていなかった様々な人たちに向けて、感謝の気持ちを形に表そうと呼びかけ、共通実践を重ねてきた。
あいさつ	**①小学校と協働した取組** 　中学生が自身の出身小学校に出向き、朝の登校時間帯に 15 分間程度、小学生の代表と一緒にあいさつ運動を行った。また朝の登校時間帯に「小中合同あいさつ運動」を行った学校もあり、小学生と中学生が活動を共にすることで、中学生にはリーダーとしての自覚を高める効果もあった。さらには、高校生や保護者と一緒に取り組んだ学校もある。 **②地域と連携した取組** 　学区の通学路で、地域の方々に進んであいさつを行った。「駅前あいさつ運動」「笑顔いっぱいキャンペーン」等の実施し、あいさつの輪の拡大を図ったことで、活動範囲や活動にかかわって下さる人の幅に広がりが出てきた。

柱	報　　告
つながり	**①異学年交流活動の取組** 　違う学級や学年の仲間と一緒に食べる「ふれ合い給食」、朝読書や給食準備の様子を参観する「お互いの学年・学級を見合う会」等、様々な活動を各校で実施することでそれぞれの良いところを認め、特に下級生は上級生の取組を参考にして、自分たちの生活に生かしていこうという雰囲気が醸成された。また、上級生には、下級生に自校の伝統をしっかりと伝えていこうという態度が芽生えてきた。体育祭での縦割り応援合戦や市総体へ向けた激励旗の作成では、全校の一体感を生み出す機会となった。創快バッジは、学校をこえて横手市の中学生全員が身に付けている。 **②ボランティア活動の推進、その取組** 　各校に設置されている各種委員会を中心に積極的なボランティア活動の推進がなされ、小中合同で行った中学校もある。また、学校祭に給食センターや職場体験でお世話になった方々を招待したり、地域の方々からのコメントを頂いたりして、学校と地域相互のつながりが活性化してきた。